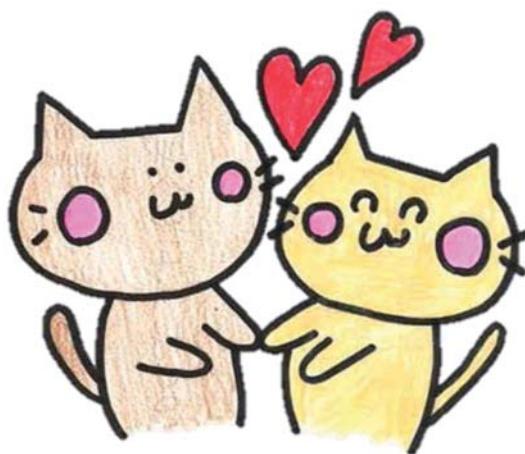


砥部町地域福祉活動計画（第 1 期）

だれもが
幸せあふれる
砥部町に



平成 29 年度～平成 33 年度
社会福祉法人 砥部町社会福祉協議会

はじめに

近年、地域を取り巻く状況は、少子高齢化や核家族化、ライフスタイルの多様化などの影響で、身近な地域における住民同士の繋がりが希薄化をしてきています。「向こう三軒両隣」「井戸端会議」などといった言葉もめったに耳にする機会が少なくなり、地域における互助関係の機能が成り立たなくなってきたのではと、懸念を抱かざるに負えません。

ここ砥部町では、そんな本来の地域機能を少しでも取り戻していくためにも、テーマである「誰もが幸せあふれる砥部町に」を掲げて、平成28年度から5か年計画である「第1期砥部町地域福祉活動計画」を策定いたしました。

この計画は地域で暮らしているすべての住民の皆様自身が無理なく始められる福祉活動の第1歩となる計画です。よりよい地域をつくることは、これまでの公的サービスだけでなく、地域住民が互いに助け合い、支え合いの中で、地域主体となって身近な生活課題に取り組んでいくことが極めて重要になります。いわばその地域づくりの方向を示す活動計画になりますので、是非 皆様のご理解をいただき、この計画の推進に参画していただけたら幸いです。この計画策定あたりアンケートをはじめ、多くの住民の方々よりご協力と貴重なご意見をいただけたこと心からお礼を申し上げます。



砥部町社会福祉協議会
会長 佐野 弘明

アドバイザーからのメッセージ

皆さんのお手元に「第1期砥部町地域福祉活動計画」をお届けします。

この計画は、住民と砥部町社会福祉協議会が共同で初めてつくる暮らしの計画になります。本計画の策定では広田地区、砥部地区、宮内地区、麻生地区の4地区すべてで地区小委員会と称して座談会を開催させていただきました。また、子どもたちを含む様々な住民にもアンケート調査にご協力いただきました。その中で、皆さんが考えた地域の力、地域の課題、そして自分たちができることをこの計画に示しました。自分たちで力や課題を発見し、課題を解決するための計画を立て、実際に実行し日々の暮らしを営む。この日々の暮らしの営みが、地域での支え合いの仕組みづくりの第一歩として頂ければ幸いです。

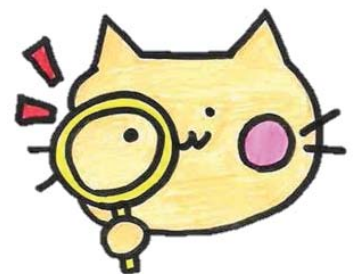
今回、座談会の中では“福祉でまちづくり”を考えるとというような住民の声を聞くことができました。このような声は、福祉の持つ狭い意味を超えて教育、文化、歴史、環境、食といった日々の暮らしへと広がりを持つものとして、これからの砥部町を元気にしていくうえでとても重要な視点です。この計画づくりをきっかけに砥部町に住む皆さまが豊かな人間関係の中で学び、仕事を持ち、子どもを産み、育て、老い、亡くなるという砥部町での暮らしをもう一度見つめ直し、伝えていっていただきたいと思います。そのために、この地域福祉活動計画を皆さんが手元に置きじっくりとお読みいただき、自分の住む砥部町広田地区、砥部地区、宮内地区、麻生地区の暮らしについて、再発見して頂ければと思います。



山梨県立大学 人間福祉学部
福祉コミュニティ学科
アドバイザー 高木 寛之

＊ 目 次 ＊

○はじめに	砥部町社会福祉協議会 会長 佐野 弘明
○アドバイザーからのメッセージ	山梨県立大学 人間福祉学部 福祉コミュニティ学科 高木 寛之
1 社会福祉協議会とは	P 4
2 計画の趣旨	P 4
3 計画策定の背景	P 6
4 計画の仕組み	P 7
5 計画の周知・評価・見直し方法	P 8
6 地域評価（アンケート）	P 9
7 計画体系図、5年間の取り組み目標（砥部町）	P 1 1
8 小地域福祉活動計画	P 1 8
9 砥部町社会福祉協議会地域アクションプラン	P 3 2
10 参考資料	
（1）アンケート集計結果	P 2
（2）設置要綱	P 2 5
（3）策定の過程	P 2 7
（4）委員名簿	P 2 8
（5）砥部町社会福祉協議会地域アクションプラン策定の過程	P 2 9



1. 社会福祉協議会とは

社会福祉協議会は社会福祉法に規定される「地域福祉の推進を図ることを目的とする団体」民間活動団体です。全国社会福祉協議会をはじめ、すべての都道府県、市町村に設置されており、住民主体に基づきながら地域の福祉課題解決に取り組み、だれもが安心して暮らすことのできる地域社会の実現を目指しています。

砥部町社会福祉協議会では、すべての住民に係るテーマであることを前提に、地域の皆様やボランティアさん、福祉関係団体、行政機関と一緒に協働・参画しながら、砥部町がよりよい福祉のまちづくりになるための活動をしています。

「社会福祉法」より抜粋 （地域福祉の推進）

第4条

地域住民、社会福祉を目的とする事業を営む者及び社会福祉に関する活動を行う者は、相互に協力し、福祉サービスを必要とする地域住民が地域社会を構成する一員として日常生活を営み、社会、経済、文化その他あらゆる分野の活動に参加する機会が与えられるように、地域福祉の推進に努めなければならない。



2. 計画策定の趣旨

私たちはだれもが、自分たちが望む暮らしを送りたいと願っております。この望む暮らしを実現していくには、ご近所同士の助け合いから行政等による公的なサービスによる支援までを含む、幅広い「支え合い活動」が不可欠です。

砥部町社会福祉協議会は、住民の皆様、地域の活動団体等に呼びかけ、この先5年間の「支え合い活動＝地域福祉活動」について考えました。5年間の取り組み目標を示したものが、地域福祉活動計画です。

この計画書は「**だれもが幸せあふれる砥部町に**」の実現に向けて、「私たちに出来ること」を、住民一人ひとりが考え、行動するきっかけとなることを願い策定しました。地域福祉活動の推進には、住民同士の支え合いと公的なサービスの充実が不可欠です。



* 地域福祉活動 *

それぞれの地域において人々が安心して暮らせるよう、地域住民や社会福祉関係者がお互いに協力して地域の福祉課題を解決するために取り組む考え方です。特定の人のためだけでなく、すべての人のために行うのが地域福祉であり、日ごろの生活の中で手助けが必要になった時、地域住民はもとより、ボランティアや行政、専門機関と一緒に困っている人を支えていく仕組みの事です。



* 地域福祉活動計画 *

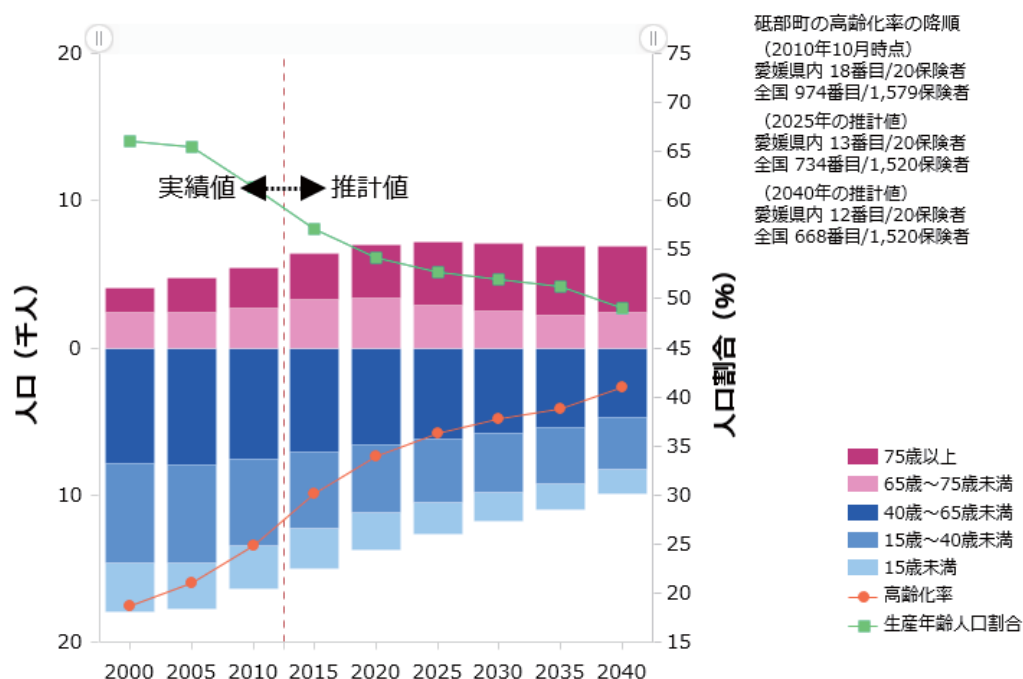
地域住民の視点から、それぞれの暮らしている地域に対して「地域のあり方」を模索し地域福祉活動の行動計画を策定することが目的です。

砥部町では初の策定となり計画期間は平成 29 年度～平成 33 年度の **5 年間**としています。

3. 計画策定の背景

町のキャッチフレーズ「清流とほたる 砥部焼きとみかんの町」にもあるように砥部町は豊かな自然や香り高い文化、歴史が息づくまちです。そして地域の関わりの中で砥部町民は思いやりのあるやさしい方が多いということをよく耳にします。

砥部町の人口の推移



(出典) 2000年～2010年まで：総務省「国勢調査」

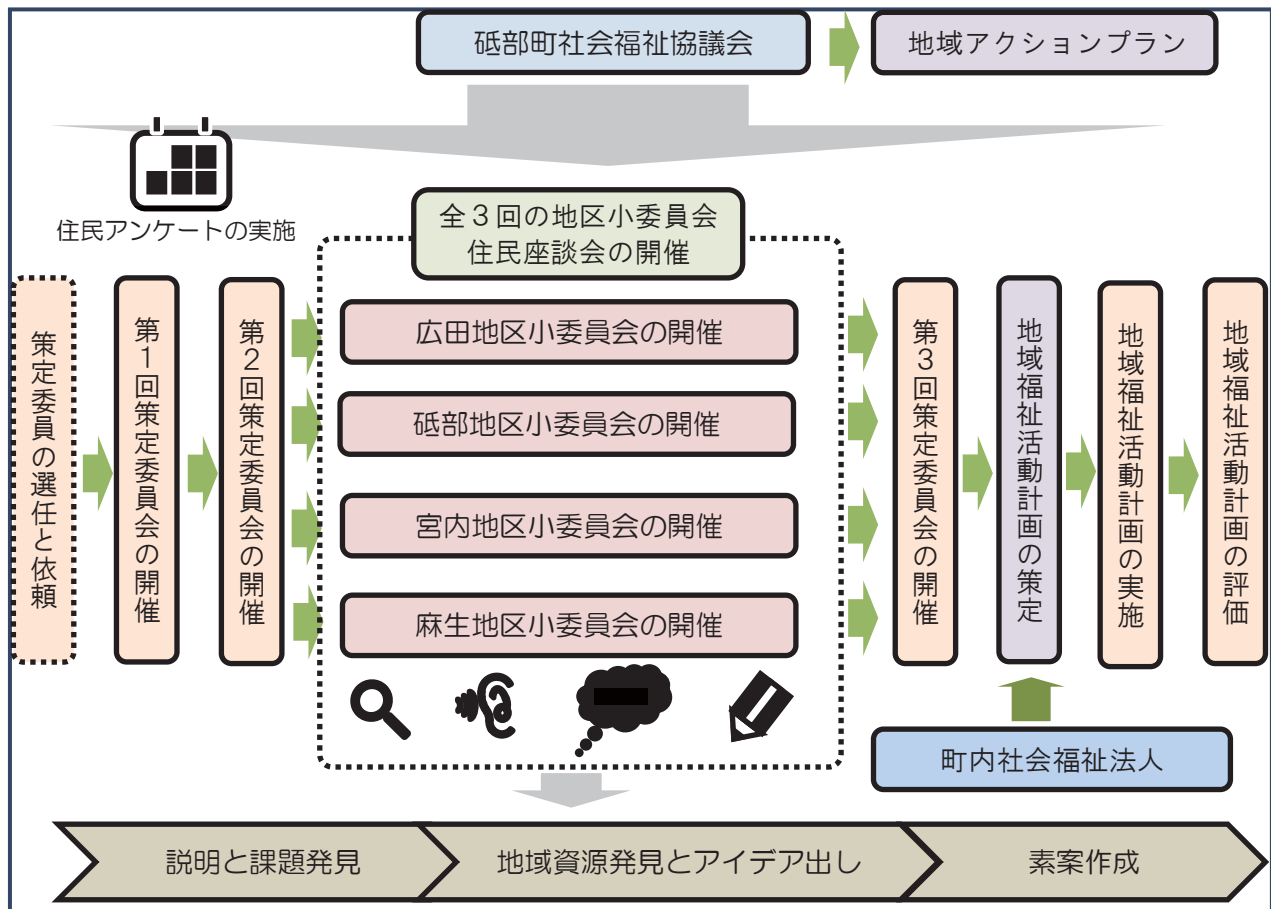
2015年以降：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成25（2013）年3月推計）」

今、砥部町の推移として、少子高齢化、人口及び生産年齢人口の減少が見込まれており、現在の暮らしや地域の状況など、少しずつ変化していくことが予想されます。

平成28年度に砥部町社会福祉協議会では、地域福祉活動計画の基礎資料として「福祉アンケート」を実施いたしました。その結果、回答者の約90%から砥部町で今後も暮らし続けたい、自分らしい生活を自分の意志で生活できていることがわかりました。その一方で、健康、高齢者課題、災害時の対応、困窮や社会的孤立などの多様な社会問題・福祉課題を抱えています。これらの課題を解決するためには、公的制度だけでは賄いきれないのが現状で、地域で困りごとを抱える人々を支えるための、新しい「地域の仕組み」が必要になってきます。

この「地域の仕組み」は、地域に暮らす人々の人間関係（①関わり合い、②困りごとを分かち合い、③支え合い）の3つの「あい」によって成り立ちます。そして福祉の専門機関、行政、ボランティアといった人たちとの協働することでより大きな力と「共生社会」を生み出す可能性があります。このような3つの「あい」を身近な地域住民の皆様が主役となってデザイン（地域福祉活動計画）していくことを推進していきます。

4. 計画の仕組み



① 小地域福祉活動計画は、身近な地域（部落単位）での近所づきあいや交流をベースとした、見守り・支え合い活動を中心的な役割として、自分たちの言葉でまとめました。

※小委員会に参加された地区のみになります。

② 町全体計画は、各地区の福祉活動計画の取り組みを支援していくと共に、地域福祉の推進のあり方を民間側から提言し、行政や関係機関、地域住民との連携・協働により進めていくことをまとめました。

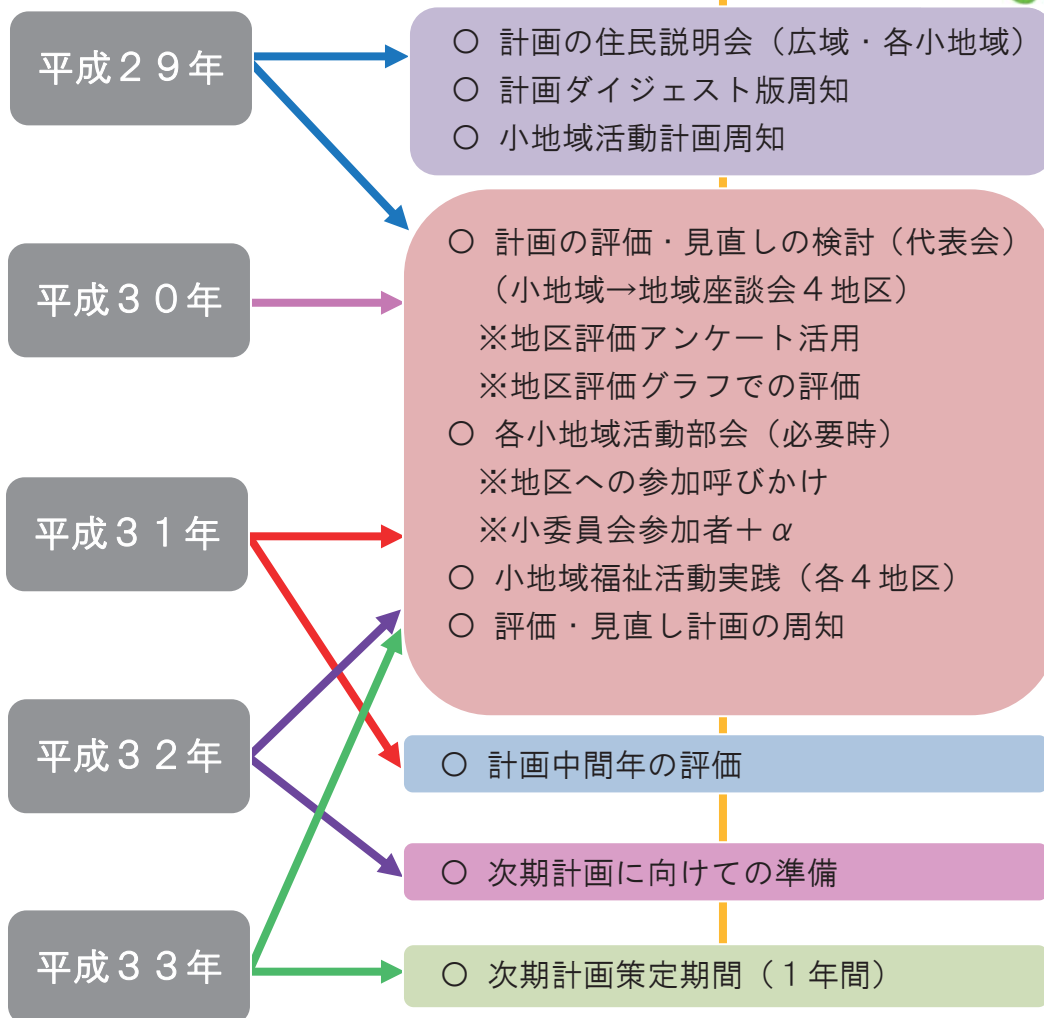
③ この計画は、砥部町社会福祉協議会の活動の在り方や方針の目安としています。

④ この計画は、町内社会福祉法人による社会福祉法人地域公益活動の目安としています。

5. 計画の周知、評価、見直し方法

活動主体：地域福祉活動推進懇談会 4 地区福祉活動推進懇談会

第1期砥部町地域福祉活動計画

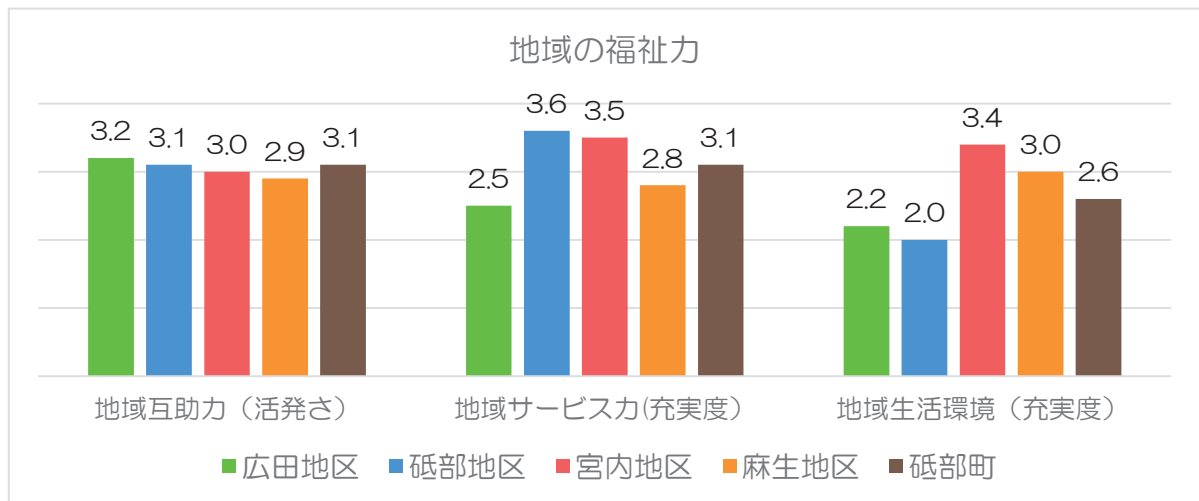


第2期砥部町地域福祉活動計画

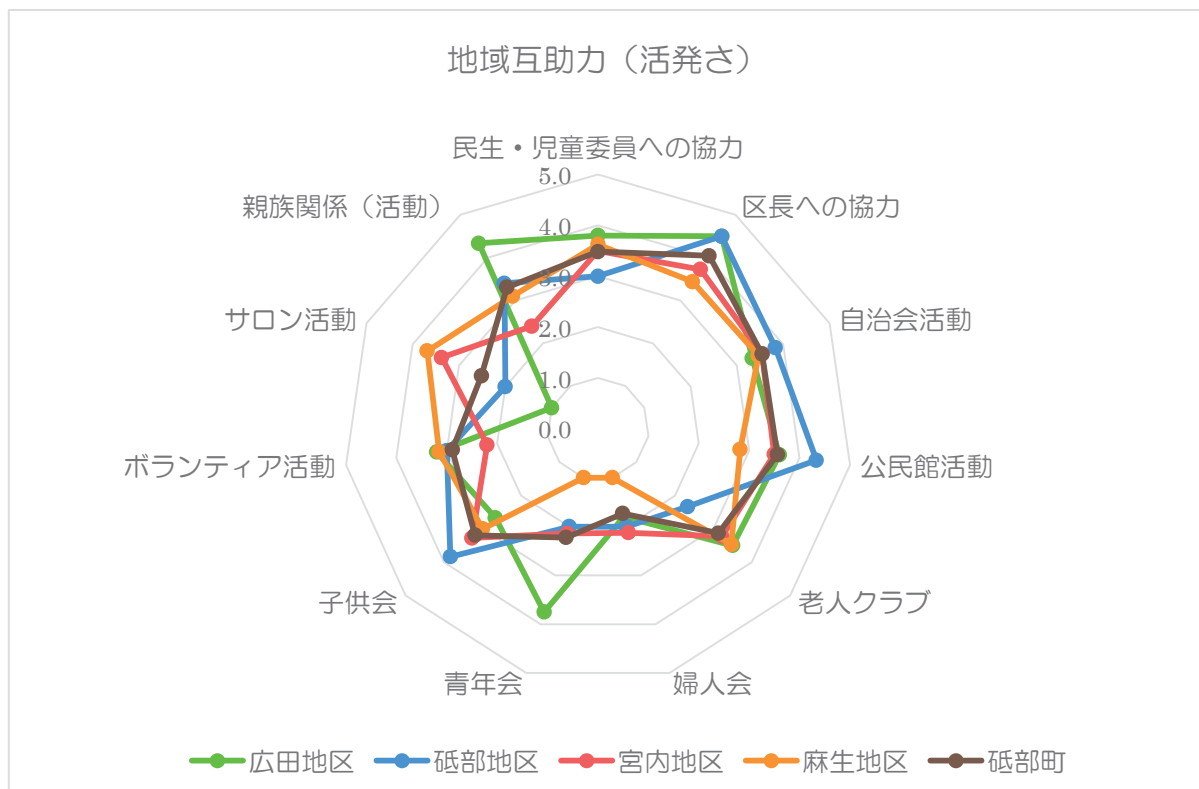


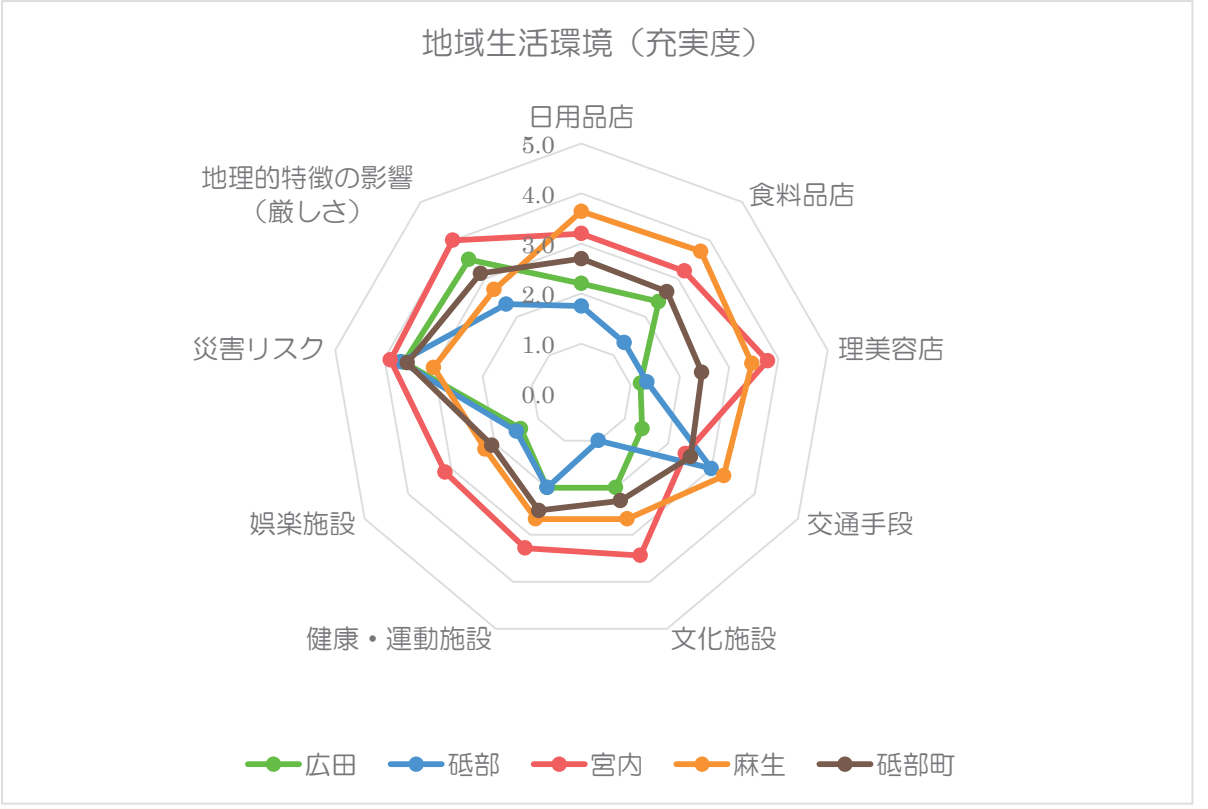
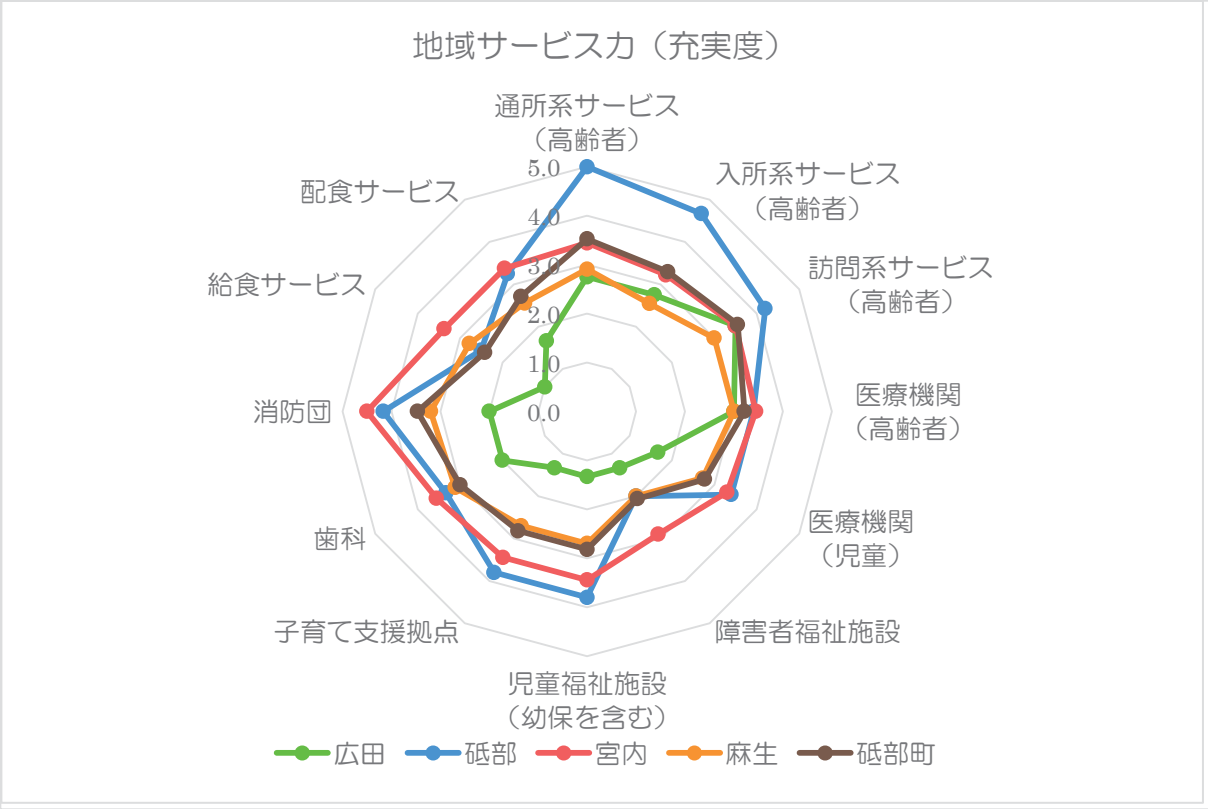
6. 地域評価（アンケート）

砥部町全体



小委員会参加者にお答えいただいた5段階評価の地域評価を平均値で整理してみると、地域サービス力や生活環境は地域の地理的状况や環境の違い（田舎暮らし・都会暮らし）により変化を感じ取れるが、環境が変わっても、地域の互助機能はさほど差がないことに気づきます。またアンケート回答にもあるように約90%の人は砥部町で自分らしい生活を自分の意志で送ることができるということと合わせて、環境はそれぞれ違うけれども地域の繋がり、地域への愛着や住みやすさは全体的に持ち合わせているように感じます。

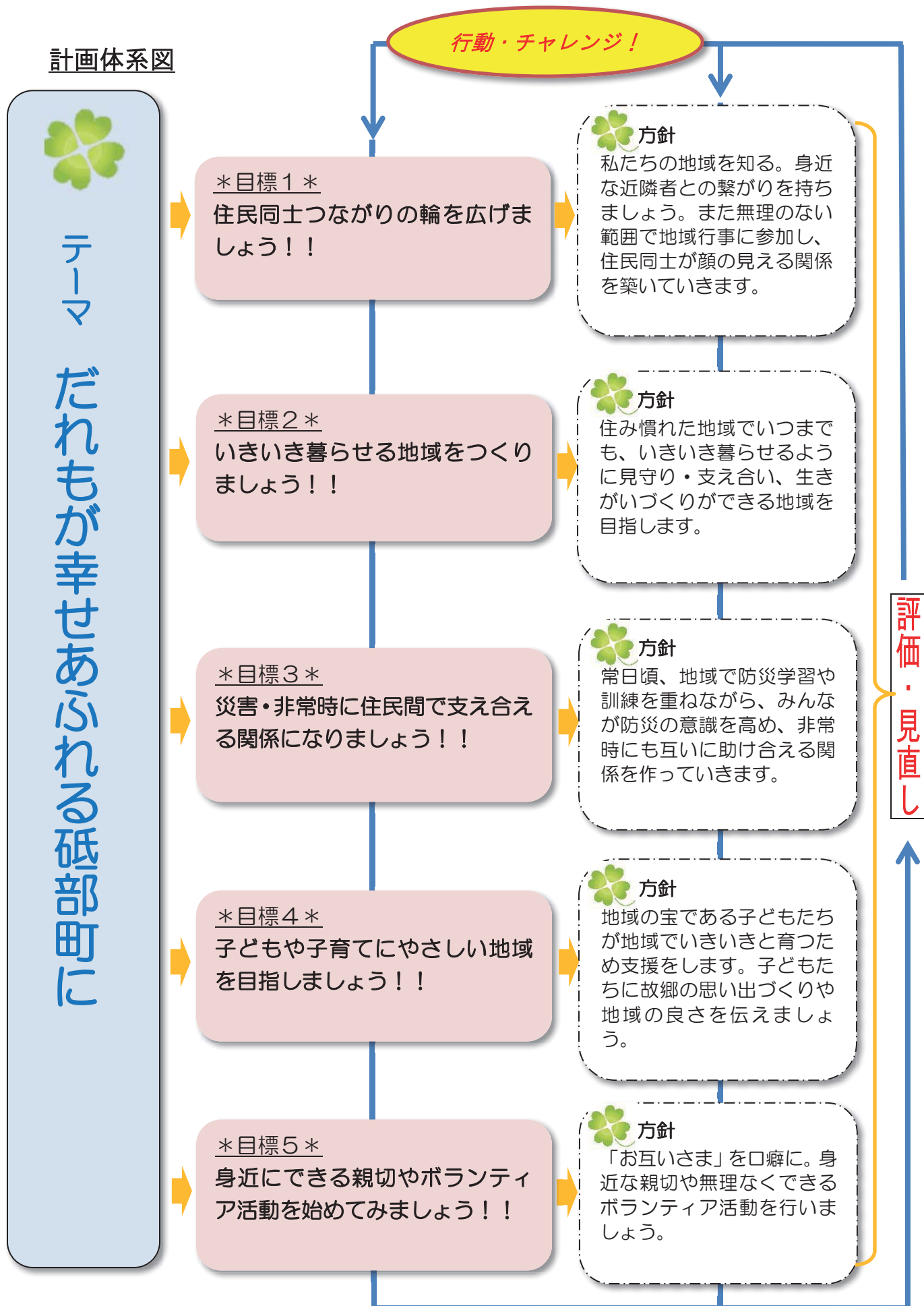




7. 計画体系図、5年間の取り組み目標（砥部町）



計画体系図



5年間の取り組み目標

住民同士繋がり の 輪を 広げ ましょう！！

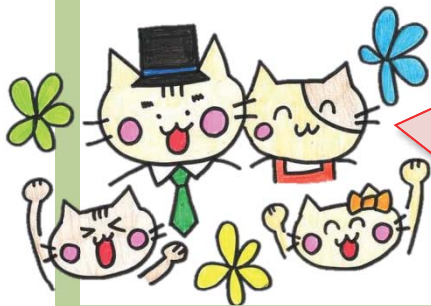


* 地域の声 *

○ アンケートグラフでは地域行事や地域活動は約40%の人があまり参加していない、もしくは参加していないことがわかりました。またアンケートや小委員会での声では、「顔の见えない地域もある」「新規住民が増えて顔がわからない」「人が減り限界集落になりつつある」との声が上がっています。

* 解説 *

○ 地域の希薄化が進むと、いままであった地域特性の喪失や防犯機能の低下、また個人や家庭で解決できない問題（貧困・引きこもり・虐待・孤立など）の中間的緩和機能を失うことにより、深刻化しておく恐れがあります。公的サービスのみで対応できない今、地域のつながりづくりは、よりよい地域の暮らしや人間社会を保つための第1歩となります。



* ひとり一人が心がけること *

* 地域みんなで取り組むこと *

- 顔の見える関係に。ひとり一人があいさつをおこないましょう。
- 無理のない範囲で地域の集まりに参加してみましょう。
- 地域の良さを探してみましょう。

* 社会福祉協議会の声 *

- 地域に出向き、地域の声や課題を受け止めます。
- 地域の担い手づくりやお世話役の方への相談・支援をします。
- 地域のつながりが発展する事業に取組みます。
- 地域福祉活動の組織体づくりに取組みます。
- 社会福祉協議会職員も地域の一員として参加・支援します。



5年間の取り組み目標

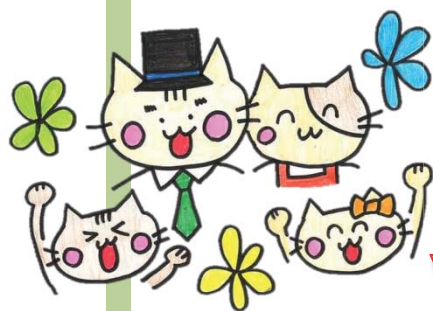
いきいき暮らせる地域をつくりましょう！！

地域の声

○アンケートでは自身が抱えている問題として健康・介護・買物などの移動手段・認知症などが上位を占めています。また「日常生活を手伝ってくれる人がほしい」「高齢者の生きがいがづくりに参加したい」「高齢者の交流できる機会が少ない」「障がい者の高齢化」という声も上がってきています。

解説

○砥部町も約3人に1人は高齢者という時代になりました。そんな中、「今の高齢者は若いし元気」との声をよく耳にします。ただ暮らしに困りごとを抱えた高齢者・障がい者の方が地域に住んでいることも事実で「電気がつかない」「最近顔を見なくなった」など普段と違うちょっとした変化に早く気が付けるのは近くにいる方です。そのちょっとした変化に気づき合える関係を育むことが大切です。



ひとり一人が心がけること

地域みんなで取り組むこと

- 生きがいがづくりに参加しましょう。また近所の高齢者・障がい者に声をかけましょう。（閉じこもりを予防）
- 近所の高齢者・障がい者のちょっとした変化に気が付ける関係になりましょう。（高齢者を地域支えましょう）
- 世代間交流の場を持ちましょう。

社会福祉協議会の声

- 高齢者・障がい者の生活の困りごとを伺います。
- 高齢者居場所づくりの推進をします。
ふれあい・いきいきサロン立ち上げなどの相談も行います。
- 地域の老人会など高齢者の活動の場づくりをします。立ち上げなどの相談も行います。
- 介護や見守り、生活支援など在宅生活の支援をお手伝いします。
- 地域住民の支え合い活動のしくみを作ります。



5年間の取り組み目標

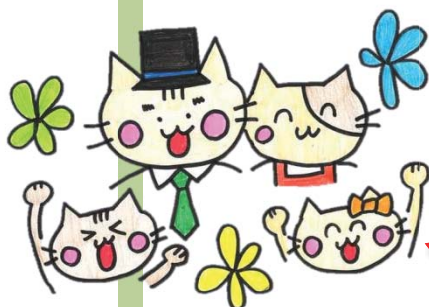
災害・非常時に住民間で支え合える関係になりましょう！！

地域の声

○アンケートでは、自身が抱えている、もしくはこれから抱えるだろう問題として「災害時の対応」が高齢者問題の次に挙げられ、また取り組みたい内容として「災害訓練・防災学習は1位を占めており、地域の不安要素として災害の関心が高くなっています。それに伴い「災害訓練が少ない」「災害時に助け合える人がほしい」との声が地域から上がっています。

解説

○砥部町は災害が少ない町との声がありますが、いつどこで起きるかわからないのが災害です。また災害に遭い、緊急時を脱しても被災にあった方の暮らしは今後も続いていくわけです。平時からの備えや個々の防災意識、そして支え合いによって被害（二次被害）を防げる手段が地域の中にはたくさんあります。



ひとり一人が心がけること

地域みんなで取り組むこと

- 近隣者同士、顔の見える関係づくりをしましょう。
- 地域には避難が困難と思われる方が暮らしていることを意識しておきましょう。
- 地域の防災訓練に参加しましょう。
- 平時から持ち出しができる避難グッズを備えておきましょう。

社会福祉協議会の声

- 平時に地域や学校で防災訓練や防災学習を推進します。
- 地域の支え合いマップづくりなどを通じて地域の繋がり強化に取り組みます。
- 災害に遭い普段の生活ができなくなった方を専門的に支援します。
- 災害時、困りごとを支援するためボランティアさんの派遣（災害ボランティアセンター）や平時に災害ボランティアさんの育成をします。



5年間の取り組み目標

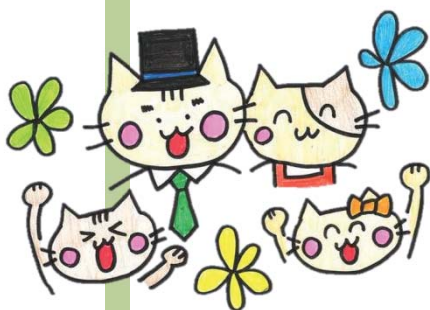
子どもや子育てにやさしい地域を目指しましょう！！

地域の声

○アンケートでは約10%以上の小中学生は、幸せを感じていないことがわかりました。そして20代～40代を合わせると約半数の人は何らかの子育ての悩みを抱えています。また地域の声では「子どもが遊べるイベントが少ない」「子どもを見守ってくれる人がほしい」「子育て世代が集まれる場がない」などの声が上がっています。

解説

○ものの豊かさ、個人主義、情報の多様化によって、子どもたちのコミュニケーションや実体験不足になりがちな現代社会。その不足を補っていくためにも地域ぐるみで子どもを育てていくことが非常に大切です。地域との交流機会が充実することで子どもたちは地域や人のすばらしさに気づき、故郷を愛する心が育ちます。そして関わる大人にとっても子どもたちから元気をたくさんもらえるのです。



ひとり一人が心がけること

地域みんなで取り組むこと

- 地域の子どもたちを見守り、声をかけましょう。
- 子どもを地域の行事に誘いましょう。
- 子どもたちが外で遊べる環境を地域で作しましょう。

社会福祉協議会の声

- 小中学校生を対象とした「生きる力を育む」福祉学習を行います。
- 子育て世代を対象とした福祉事業を推進します
- 世代間で交流できるイベントや企画作りをします。
- 子どもや子育て、生活の悩み事を伺います。



5年間の取り組み目標

身近にできる親切やボランティア活動を始めましょう！！

地域の声

○約85%の子どもたちは、地域困っている人の手助けがしたいと思っています。また地域の声では「定年になればボランティアをしたい」「助け合い制度をつくってほしい」との声も上がっています。

解説

○ボランティアを始めたいと思うきっかけは人それぞれです。ボランティアは自分に関心のあるテーマ、自分にできることからはじめられるとても身近な活動です。ボランティア活動は地域や社会をよりよくしていくことに役立つとともに自分自身も豊かにしてくれる力を持っています。



ひとり一人が心がけること

地域みんなで取り組むこと

- ひとり一人がまず身近な親切を意識しましょう。
- 地域で無理なくできるボランティア活動を見つけましょう。
- 自分の趣味や特技をボランティア活動に活かしましょう。

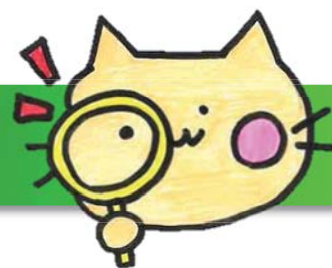
社会福祉協議会の声

- ボランティア情報をお知らせします。
- ボランティアさんを必要としている方とボランティア活動をした方の相談を伺いお互いを繋げます。
- ボランティアさんを育成する事業に取り組みます。
- ボランティアさんが活躍できる場、助け合いの仕組みを作ります。
- ボランティア交流やイベントでボランティアの輪を広げます。



広田地区





地域のいいところ

生活環境

- ・自然が豊か。
- ・体が元気なら充実した生活が送れる。
- ・自給自足の生活体験が出来る。
- ・住宅の距離感がいい。

人

- ・義理人情がある。
- ・顔見知りが多く関係が深い。
- ・忘れ物が戻ってくる。
- ・世代間交流が濃い。
- ・武道経験があり、高齢者にストレッチを教えたい。

地域活動

- ・地域イベント、行事がある。

地域を見つめて

生活環境

- ・交通問題（買い物、通院など）
- ・積雪が多い。
- ・有害鳥獣が多い。
- ・空き家が多い。
- ・店や娯楽施設がない。
- ・困りごとの相談窓口をわかりやすくしてほしい。
- ・医療福祉の情報を手軽に得たい。

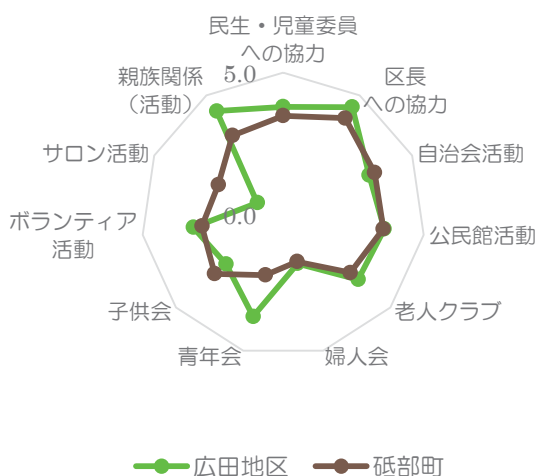
人

- ・人口が減少し、限界集落となっている。
- ・付き合いごとが多い。
- ・ボランティアの人材育成に力を入れてほしい。
- ・健康や認知症問題。

地域活動

- ・コミュニケーションの場がない。
- ・子育て世代が集まれる場がない。
- ・気軽に集える場がほしい。
- ・災害訓練など住民が参加できる場がほしい。

広田地区 地域互助力（活発さ）
※小委員会参加者の声



社協からのメッセージ

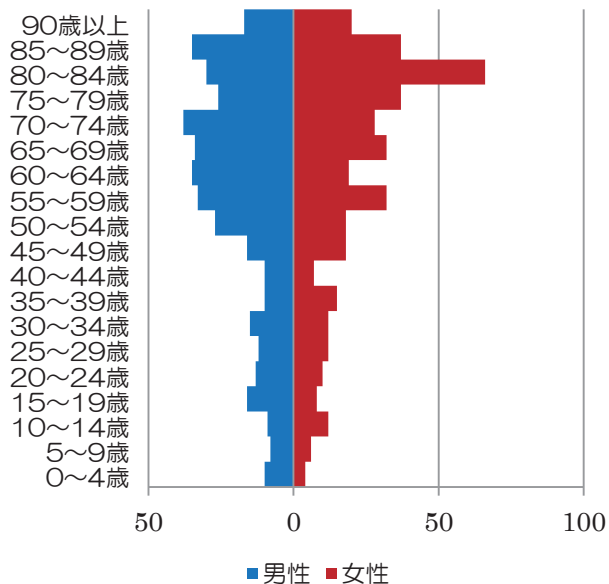
広田地区は、住民同士のつながりが他の3地区に比べて非常に濃いです。しかし、一軒一軒の距離が遠いのが特徴です。広田には協議体が多く住民活動が活発なので、住民同士のつながりの維持、防災対策、見守り支援などの福祉的な活動を、一人ひとりの生活の延長線上で行うことが出来たらと思います。





人口	786	人
世帯数	419	世帯
民生委員・児童委員数	8	人
高齢者数	400	人
高齢化率	53.3	%
独居高齢者数	90	人
要支援認定者数(高齢者のみ総計)	34	人
要介護認定者数(高齢者のみ総計)	60	人
サロン数	2	サロン
老人クラブ数	4	クラブ

広田地区 人口ピラミッド



福祉活動
キャッチフレーズ



笑顔で交流いきいき広田
(広田地区全体)



* 地区の5カ条 *

1. 気軽に集える場づくり
2. 住民主体のイベントづくり
3. 地域の特産を活かしたまちづくり
4. 健康寿命のまちづくり
5. 子育て世代の支援

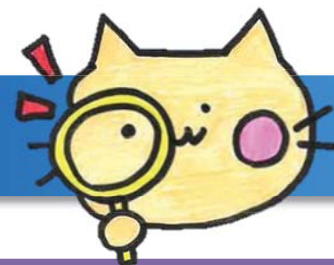
* 社会福祉協議会の声 *

- 地域で気軽に集える場づくりを一緒に考えます。
- 無理なく継続できる地域イベントに参画します。
- 高齢者の暮らしのお手伝いをします。
- 福祉のみならず地域おこしや地域活性に協力します。
- 今後も座談会に参加し地域の声を受け止めます。



砥部地区





地域のいいところ

生活環境

- ・鳥や虫が多い。
- ・災害が少ない。
- ・清掃活動をしているため、道路がきれい。
- ・プール付き児童館がある。
- ・バスが通っている。
- ・カーブミラーが多く安心。

人

- ・地域住民が協力し合っている。
- ・挨拶が良くできている。

地域活動

- ・イベントがたくさんある。
- ・スポーツが盛ん。
- ・獅子舞保存会がある。
- ・行事に参加する企業がある。
- ・世代間交流が盛ん。
- ・PTA 活動が盛ん。
- ・町内会活動が多い。
- ・楽市イベントがある。
- ・元気なお年寄りとお年寄りの交流。
- ・子どもの交流。

その他

- ・陶街道スタンプラリーがある。

地域を見つめて

生活環境

- ・遊べる場所が少ない。
- ・空き家が多い。
- ・坂が多い。
- ・待機児童。
- ・お店が遠い。
- ・街灯が少ない。
- ・乳癌検診等の補助を若い世代にも出してほしい。
- ・災害訓練など住民が参加できる場がほしい。
- ・意見を手軽に言えるポスト箱等置いてほしい。

人

- ・協力的でない人が増えてきている。
- ・障がい者の高齢化。
- ・在宅で看取る（延命せずに）ことを希望。
- ・子ども食堂や高齢者向けの食堂などあればいいな。

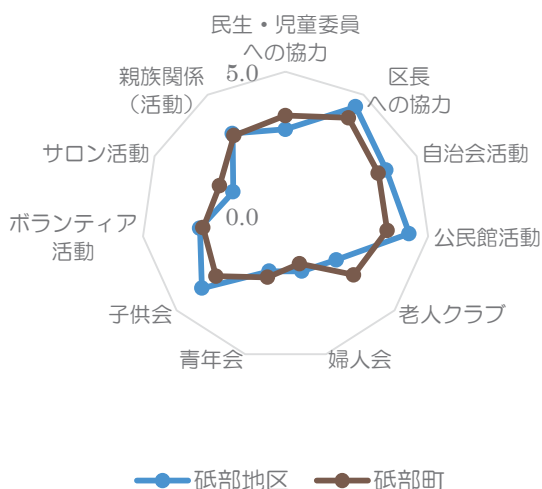
地域活動

- ・地域活動が多すぎる。
- ・老人会の減少。
- ・住民付き合いの場が多く苦痛。
- ・誰でも自由に参加できるサークルを作ってほしい。

産業

- ・工場があり車の出入りが多い

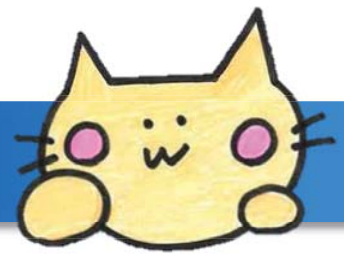
砥部地区 地域互助力（活発さ）
※小委員会参加者の声



社協からのメッセージ

砥部地区は、万年、岩谷、外山周辺は谷川筋の地区、そして大南、五本松、北川毛など昔ながらの商店街や砥部焼窯などの産業がある文化的な地域もあり、昔ながら砥部町で生活をされている方が多い地域です。そんな地域の方々からのお話を聞かせていただいた中で、皆様の地域への思いを強く感じることができました。今後、定期的な住民座談会を広く周知し、すこしでも多く地区の方に参画していただけるようアプローチを行いたいと思います。





人口	6,024	人
世帯数	2,538	世帯
民生委員・児童委員数	15	人
高齢者数	1,907	人
高齢化率	31.7	%
独居高齢者数	207	人
要支援認定者数(高齢者のみ総計)	133	人
要介護認定者数(高齢者のみ総計)	246	人
サロン数	8	サロン
老人クラブ数	10	クラブ

福祉活動 キャッチフレーズ



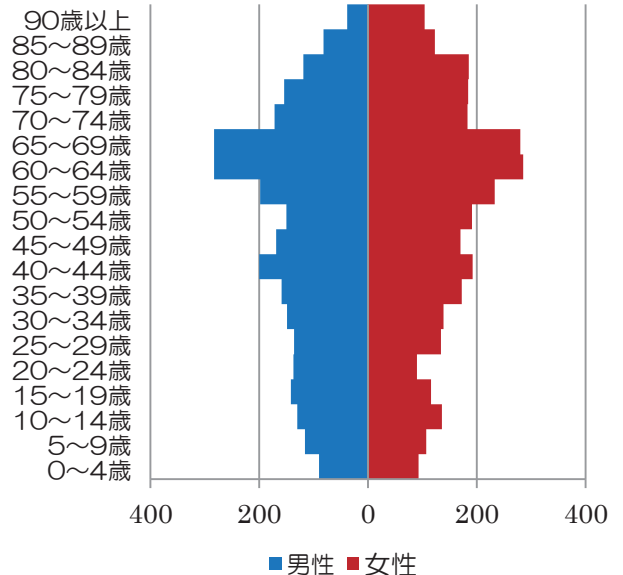
しょうゆが借りれる地域づくり
(外山・五本松・北川毛周辺地域)



* 地区の3カ条 *

1. 健康長寿のまちづくり
2. 明るく楽しい地域づくり
3. 老人パワーを活かしたまちづくり

砥部地区 人口ピラミッド



いろんな世代の交流が盛んな地域づくり
(岩谷口地域)



* 地区の5カ条 *

1. 伝統行事の保存伝承活動
2. 地域の清掃美化活動
3. 地域の寄り合い所づくり
4. 断層公園、砥部川をきれいに
5. 松山南高等学校砥部分校との交流



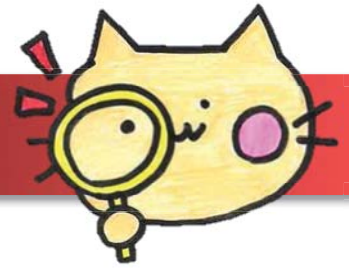
* 社会福祉協議会の声 *

- 老人福祉センターなど住民が気軽に集える場づくりを一緒に考えます。
- 地域の組織づくりや地域活動の相談を伺います。
- 地域行事など社協の事業や資源をぜひ活用ください。
- 地域や学校と一緒に地域づくりを目指します。



宮内地区





地域のいいところ

生活環境

- ・小中学校が近い。
- ・総合公園、文化会館、図書館、温泉がある。
- ・スーパーがある。
- ・高齢者の買い物、家事、通院を気軽に手伝ってくれる人がほしい。

人

- ・近所付き合いがあり、仲がよく、気軽に相談できる、声を掛け合える。
- ・人が優しく、助け合いや思いやりがあり、熱意のある人が多い。
- ・子ども、高齢者が明るく、笑顔。
- ・挨拶が良くできている。

地域活動

- ・世代間交流が出来ている。
- ・ボランティアグループが多い。
- ・サロン活動が活発。
- ・地区の清掃日に全員が参加しており地域がきれい。
- ・納涼祭がある。

地域を見つめて

生活環境

- ・野生の猫が多くて困る。
- ・子どもの遊べる場所が少ない。
- ・ごみのボイ捨てが多い。
- ・高齢者の健康問題に力を入れてほしい。
- ・医療、福祉の情報を手軽に得たい。
- ・講演会等、福祉について学ぶ機会がほしい。
- ・災害訓練など住民が参加できる場がほしい。
- ・街灯が少なく、夜暗い。

人

- ・顔の見えない関係の地域もある。
- ・仲の悪い地域もある。
- ・災害時に助け合える人がほしい。
- ・独居や日中独居の人が増えている。

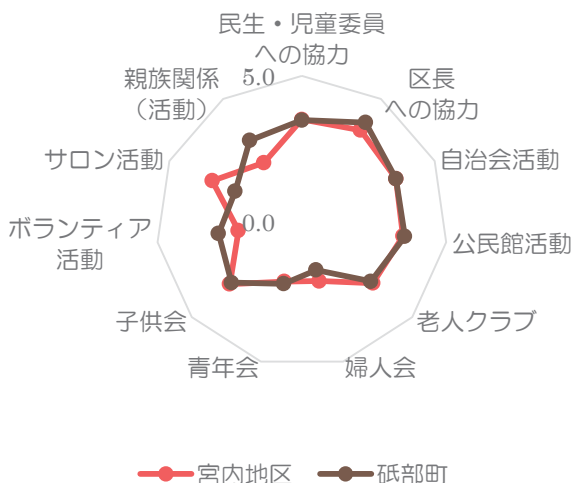
地域活動

- ・国道を挟んでいる地区との交流が難しい。
- ・子どもが楽しめるイベントが少ない。
- ・早朝からの放送が迷惑。
- ・ボランティアなど人材育成をしてほしい。
- ・子ども、高齢者の集いの場がほしい。
- ・見守りをお願いできるサービスがあったらいい。
- ・老人会のない地域もある。
- ・当事者の周囲の人が手を上げられるようなホットラインがあったらいい。

その他

- ・転入者が組み入りできない地域もあり、組み入り費も高額。

宮内地区 地域互助力（活発さ）
※小委員会参加者の声

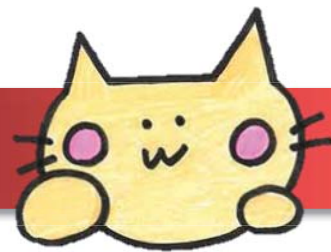


社協からのメッセージ

宮内地区は、公共施設等に恵まれた地区であり、老人クラブやサロン等の地域団体も活発なところが多いです。

地域での福祉課題解決には、住民の参加、協力が不可欠なため、今後も地域交流を維持、継続していく中で地域での課題は地域で解決していくことが出来るような、地域の福祉のつながりが生まれてくることを期待し、支援していきたいと思います。





人口	6,033	人
世帯数	2,429	世帯
民生委員・児童委員数	10	人
高齢者数	1,680	人
高齢化率	27.8	%
独居高齢者数	372	人
要支援認定者数(高齢者のみ総計)	98	人
要介護認定者数(高齢者のみ総計)	174	人
サロン数	5	サロン
老人クラブ数	6	クラブ

穏やかで住みやすい地域づくり
(さかえ・千足・幸田周辺地域)



福祉活動
キャッチフレーズ

地域の3カ条

- 1.集いの場づくり
- 2.あいさつ運動
- 3.子育てしやすい地域

宮内団結

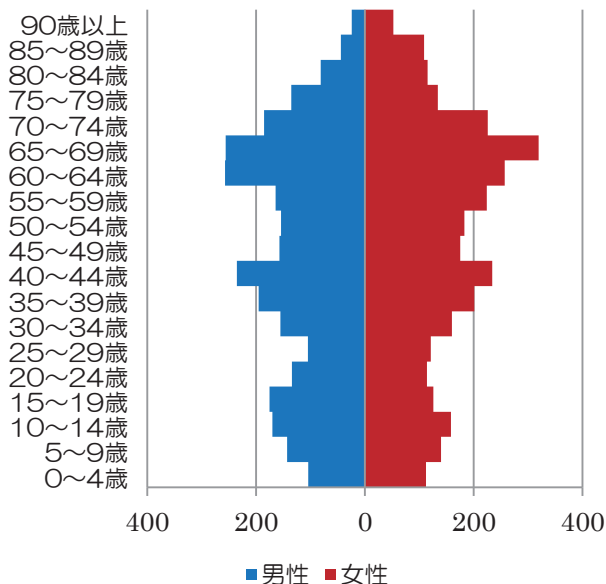
(宮内・山並・頭ノ向周辺地域)



地域の5カ条

- 1.みんなであいさつをしよう
- 2.健康づくりに取り組もう
- 3.地域のふれあいを深めよう
- 4.地域の良さを発見しよう
- 5.環境美化に努めよう

宮内地区 人口ピラミッド



楽しく元気な地域づくり
(川井周辺地域)



地域の4カ条

- 1.川井の歴史を探ろう
- 2.サロンづくり・きっかけづくり
- 3.地域活動を活発にする
- 4.人材発掘

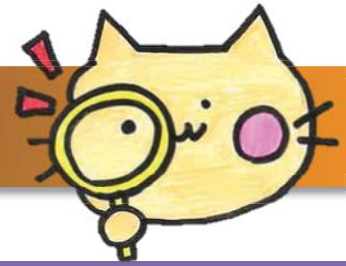
社会福祉協議会の声

- 地域住民が気軽に集える場やイベントと一緒に考えます。
- 地域サロンや老人クラブなどの立ち上げのお手伝いをします。
- 一緒に地域を巡り地域を知る活動をおこないます。
- 地域の世代間のマッチングをおこないます。



麻生地区





地域のいいところ

生活環境

- ・自然が豊か。
- ・交通の便がいい。
- ・散歩できるところが多い。
- ・集会所が利用できる。
- ・病院、スーパーが多い。
- ・運動、趣味を楽しめる場所がある。

人

- ・人が優しく世話好きな人が多い。
- ・近所付き合いが多く相談しやすい。
- ・挨拶が出来る。
- ・子どもが多くにぎやか。

地域活動

- ・自治会のまとまりがある。
- ・老人会が元気。
- ・地域行事、子どもの交流が多い。
- ・サロンが多い。

地域を見つめて

生活環境

- ・車、自転車のスピードが速く危ないため、通学路が危険。
- ・空き家が多い、日中留守の家が多い。
- ・小さな公園が少ない。
- ・介護の不安を軽減してほしい。
- ・困りごとを相談する窓口を分かりにくい。
- ・医療・保健・福祉の情報を手軽に得たい。

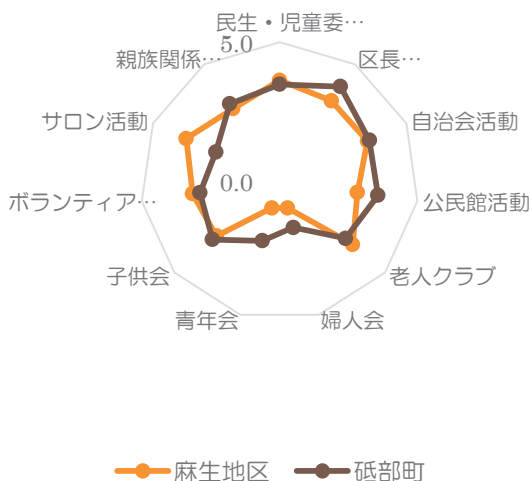
人

- ・人間関係の希薄化、新規住民が増え、顔のわからない関係の人が多い。
- ・避難場所が少ない。
- ・子どもたちを見守ってくれる人がほしい。
- ・待機児童問題。
- ・LGBT（性的少数者）についての教育。

地域活動

- ・高齢化で行事がやりにくい。
- ・災害訓練がないので不安。
- ・町内会への未加入者の増加。
- ・伝統行事の参加者の減少。
- ・新規居住者が参加しやすい行事。
- ・引っ越してきたばかりで、地域の人と子どもを通して仲良くなりたい。
- ・地区全体にサロンが広がってほしい。

麻生地区 地域互助力（活発さ）
※小委員会参加者の声



社協からのメッセージ

麻生地区には医療技術大学があります。学校と地域が深く協働することが出来れば災害訓練や医療・保健・福祉の情報発信また地域の交流の場としても活用できうるのではないかと思います。地域資源の活用と、幅広い交流による地域づくりを積極的に支援したいと思います。



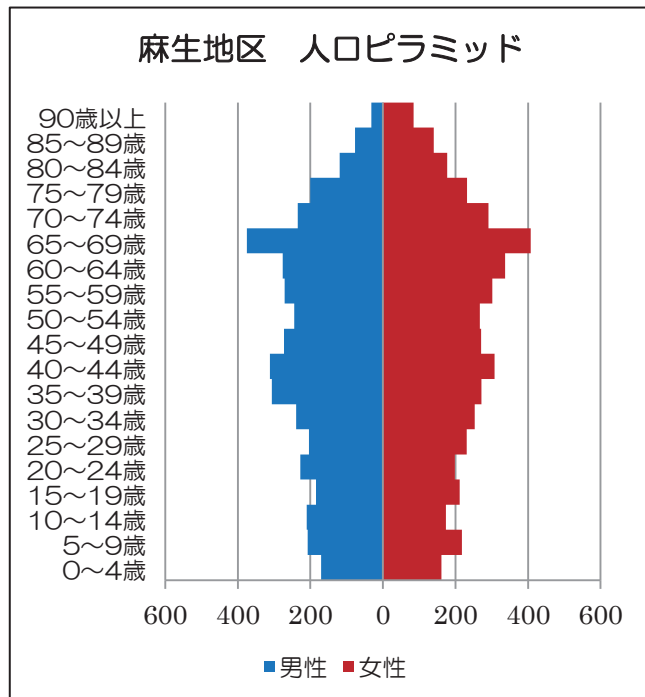


人口	8,696	人
世帯数	3,864	世帯
民生委員・児童委員数	15	人
高齢者数	1,976	人
高齢化率	27.3	%
独居高齢者数	332	人
要支援認定者数(高齢者のみ総計)	132	人
要介護認定者数(高齢者のみ総計)	262	人
サロン数	8	サロン
老人クラブ数	6	クラブ

福祉活動
キャッチフレーズ



地域環境を活かした仲間づくり
(原町・南ヶ丘周辺地域)



地域の3カ条

1. 高齢者・障がい者にやさしいまちづくり
2. 自然を活かした健康づくり
3. 情報交換の場づくり



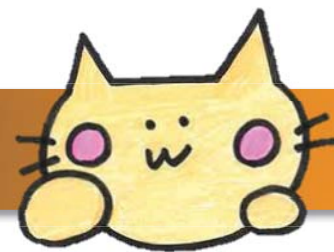
豊富な資源を利用した交流を
(麻生・三角・拾町・重光・八倉周辺地域)



地域の3カ条

1. 世代間交流をする
2. 伝承していく
3. 環境を整備する





住民間の「絆」を広げよう
(高尾田・八瀬周辺地域)



地域の4力条

1. 地域と人材を活かした地域づくり
2. 交流を図ろう
3. 高齢者の健康維持
4. 一声運動と見守り活動を推し進めよう

福祉活動 キャッチフレーズ



水資源を利用した地域交流の場整備
(高尾田・県団地周辺地域)



地域の3力条

1. 地域の人材発掘
2. 人が自由に集まれる場づくり
3. 地域との交流



社会福祉協議会の声

- 地域で暮らす高齢者・障がい者の見守りを推進します。
- 地域の拠点づくりを一緒に考えます。
- 地域資源や地域人材の発掘につとめます。また社協だよりや HP などを活用し地域を発信します。
- 地域イベントで福祉学習や防災学習に取り組みます。
- 地域・学生との接点づくりや交流をおこないます。

みんなで「力」を合わせましょう！

みんながいきいきと目標に向かって取り組んでいくことが、結果、町全体の活性につながります。
「つながる力」「支える力」「気づく力」「続ける力」「輝かせる力」…。
ひとつの力の高まりが、他の力の高まりへと連動していきます。これこそが“つながるしくみ”なのです。



「だれもが幸せあふれる砥部町に」

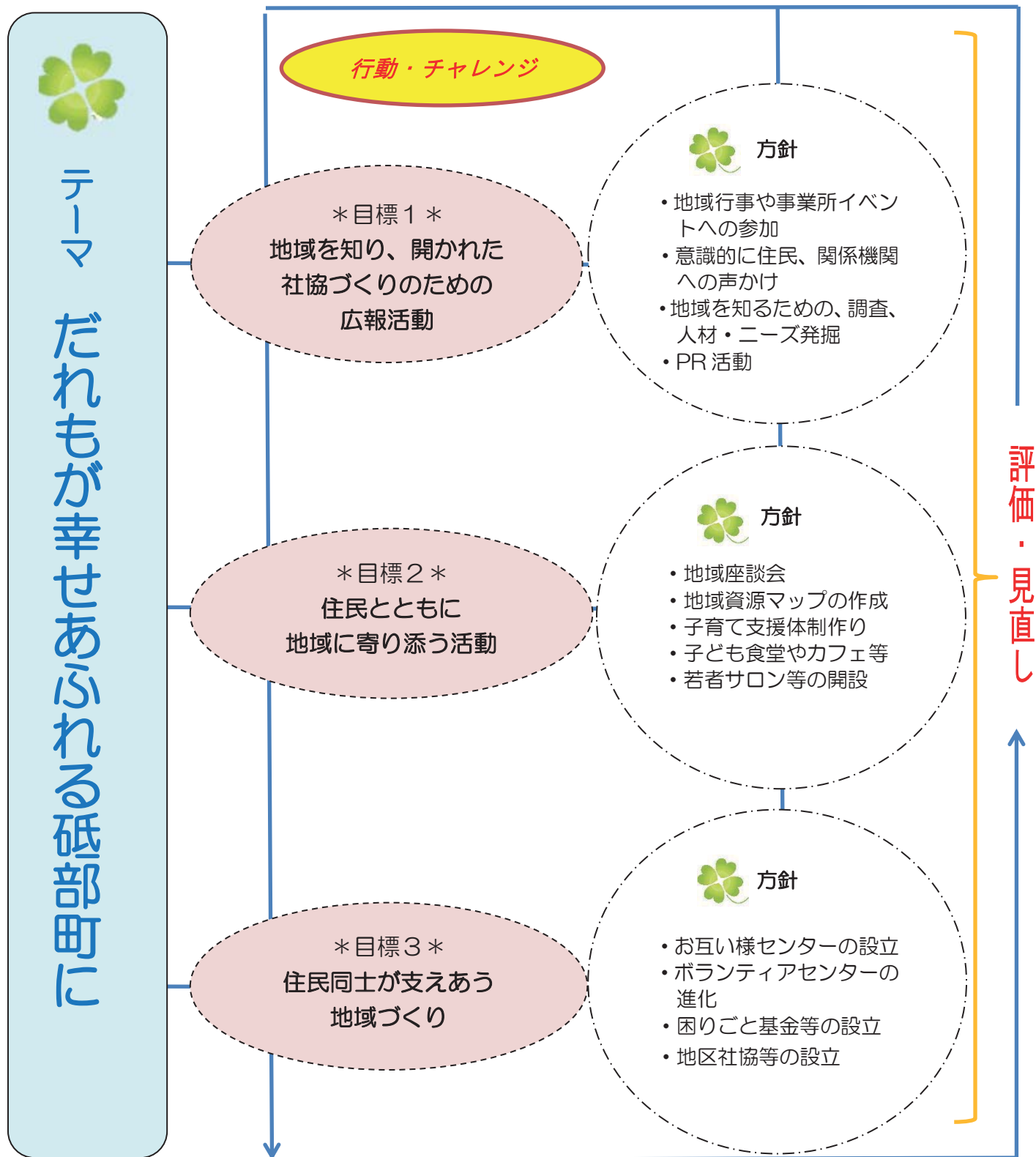
9. 砥部町社会福祉協議会 地域アクションプラン



砥部町社会福祉協議会 地域アクションプラン



今回、地域福祉活動計画を策定する上で、地域に対する社協職員のあり方を示す砥部町社会福祉協議会職員強化・発展計画も作成しました。この計画は、地域福祉活動計画と連携した、社協職員の行動計画です。今後、職員が地域の住民の方々に対しての行動原則と基本姿勢を示し、住民と共に地域福祉の推進をして行きたいと思います。



社協職員行動原則 ～私たちがめざす職員像～



社会福祉協議会は、住民主体による地域福祉の推進をめざし、制度だけでは対応しづらい様々な福祉問題に対して福祉サービスや相談援助などの個別支援と地域における協働による解決を重視して、住民が主人公となる社会福祉のあり方を追求していきます。

これまで築き上げてきた社協職員としての価値観や使命感を「社協職員行動原則」として共有し、誇りをもって行動します。

【尊厳の尊重と自立支援】

1. 私たちは、人々の尊厳と自己決定を尊重し、その人が抱える福祉問題を解決し、住み慣れた地域でその人らしく暮らすことができるよう最善を尽くします。

【福祉コミュニティづくり】

2. 私たちは、住民が身近な地域における福祉について関心を持ち、福祉活動に参加する住民主体による福祉コミュニティづくりをめざします。

【住民参加と連携・協働】

3. 私たちは、住民参加と地域の連携・協働により業務を行なうことを心がけ、地域に根ざした先駆的な取り組みを応援し、地域福祉を推進する実践や活動を広げます。

【地域福祉の基盤づくり】

4. 私たちは、福祉課題を地域全体の問題として捉え、新たな事業や活動の開発、提言活動や計画づくりの取り組みに積極的に関わり、地域福祉の基盤づくりの役割を担います。

【自己研鑽、チームワーク、チャレンジ精神】

5. 私たちは、自己研鑽を重ね、職員同士のチームワークと部署間の連携をすすめ、チャレンジ精神をもって業務を遂行します。

【法令遵守、説明責任】

6. 私たちは、法令を遵守し、自らの組織や事業に関する説明責任を果たし、信頼され開かれた社協づくりをすすめます。

参考：「社協職員行動原則」全国社会福祉協議会

砥部町社協職員の基本姿勢

砥部町社会福祉協議会職員は、この基本姿勢を基に地域福祉の領域や役割が大きくなる中で、社協に対する信頼や社会的な期待に応えるために、職員一人ひとりが自覚と責任ある行動を行うことを目指します。



誰もが
幸せあ
ふれる
砥部町
に

正しい人格と、愛される人柄を育む

止まらない成長と可能性の追求

責任感ある社協マン

笑顔を忘れない

日々、地域への感謝

社会資源の創造と開拓

数値化できない住民の声を肌で感じる

